

ハチ公は本当に忠犬だったのか？

農学国際専攻 教授 溝口 勝

1. ハチ公像との出会い

東京・渋谷駅前の忠犬ハチ公像は待ち合わせ場所として有名である。私が東大に入学した45年前、飼い主が死んだ後10年間ここで待ち続けたという話を聞いて「そんな犬がいるのかな」といぶかしく思った。

2. 農業工学と上野先生－竹中教授の証言

農学部農業工学科3年生の時、ハチ公の飼い主が日本の農業工学（農業土木学）の創始者・東大農学部の上野英三郎教授であることを知った。上野教授から数えて5代目の竹中肇教授は農地工学の講義で「君たち、ハチ公は忠犬だと思っているでしょ？実はね、上野先生は子犬のハチを連れて農林省役人の教え子たちとよく渋谷駅前の焼き鳥屋で農地整備に関する議論をしていたらしい。あまりにも熱中してハチを忘れていると腹をすかしたハチがクンクン鳴くので不憫に思った焼き鳥屋のおやじが残飯をあげていたようだよ。私も学生の時に先生から聞いた話ですがね」と笑った。私はこの話を聞いてハチ公も普通の犬なんだと思えて、逆に愛着がわいた。

3. ハチ公と上野英三郎博士の除幕式－86歳のおばあさんの証言

ハチ公の飼い主が東大教授であったことは農業工学を学んだ卒業生には常識だったが、特にそれを宣伝することもなかった。それが、文学部哲学科の一ノ瀬教授が東日本大震災の時に「死といのち」について調べているうちに飼い主が東大教授であることを知り、「ハチ公と上野英三郎博士の像を東大に作る会」の結成を発案してくれた。これ幸いと私たち卒業生も加わり寄付金集めが始まった。そしてハチ公の命日から80年目の2015年3月8日に銅像の除幕式が行われるに至った。

除幕式には生きた老犬ハチ公に触ったことのある86歳のおばあちゃんも招待された。私はこっそりと「ハチ公は焼き鳥が好きだったと聞いたことがあるのですが本当ですか」と尋ねた。すると「そうなのよ、私はハチ公が大好きでねえ、帰宅した父に毎日『今日はハチ公どうしていた？』と聞くと『今日も焼き鳥屋にいたよ』と言っていたわねえ。そして『ハチ公は焼き鳥を食べられていいなあ。』というとお父さんが『これでお母さんと焼き鳥を食べなさい』とポケットからお金を取り出してくれたのよ。私はハチ公のおかげで初めて焼き鳥を食べて、世の中にはこんなに美味しいものがあるんだと思ったのよ」と懐かしそうに話してくれた。人は初めて美味しいものを食べた時のことを覚えているものである。私はおばあさんの話を聞いてハチの焼き鳥好きを確信してさらに好きになった。

4. 農学資料館に展示されているハチ公の臓器－解剖の記録

ハチ公と上野教授の銅像は東大農学部正門を入れて左手にある。正門右の農学資料館には死後直後の1935年3月8日に解剖されたハチ公のホルマリン漬け臓器と剖検記録が展示されている。解剖の状況を記した剖観の7行目には「胃ニハ内容白色ノ糊様物ト5センチ位ノ長サ5ミリナル竹串先鋭ナルモノ3本鈍端ナルモノ1本存在ス」と物的証拠の記録が残されている。

5. ハチ公が生きた時代－軍国主義とプロパガンダ

ハチは日本の軍国主義の時代を生きた。1924年1月にハチは秋田県大館市から上野先生の家に来て来た。しかし上野先生は1925年5月に急逝し、その後ハチは忠犬と言われるようになった。1934年には全国の児童が学ぶ尋常小学校2学生の修身の教科書に「恩ヲ忘レルナ」という忠犬ハチ公物語が掲載され、銅像にもなった。ハチが死んだ1935年は向ヶ丘（弥生）の旧制一高と駒場の農学部本科のキャンパスが交換された東大農学部にとって重要な年である。そして、その年の2年後に日中戦争、6年後に太平洋戦争へと日本は流れていった。

忠犬とは飼い主に忠実な犬と定義される（Weblio 辞書）。私にとっては、ハチ公は忠犬というよりも戦争のプロパガンダに利用された可哀そうな犬に思えて仕方がない。こうした事実を語り継ぐことが私のハチ公物語である。



忠犬ハチ公のプロフィール

- 1923.11.10 秋田県大館市生まれ
- 1924.1.14 上野英三郎博士との出会い
- 1925.5.21 上野英三郎博士が急逝
- 1932 「いとしや老犬物語」（東京朝日新聞の記事）
- 1934 「恩ヲ忘レルナ」（尋常小学修身書）
「忠犬ハチ公像」（渋谷駅前）
- 1935.3.8 ハチ死亡

写真：生きたハチ公に触ったことのある86歳のおばあさんとの2ショット（2015.3.8）



左：11月1日販売開始の上野ハチ公ラーメン@農学部食堂 中央：子犬ハチ公シール（毎月発行） 右：上野英三郎先生とハチ公コレクション（ページQRコード）